

特集

心豊かな子どもを育てる

巻頭言

大きな逆説

今道友信 6

座談会

豊かな心を育てる教育に期待されるもの

(出席者) 萩原武雄／片岡徳雄／中村桂子／河合隼雄／(司会) 瀬戸 真

8

論文

子どもの心とその指導

真仁田昭 18

豊かな心を育てる学校教育の課題

尾田幸雄 22

生涯学習の視点に立った豊かな心を育てる教育

木原孝博 26

提言

若き日の思い出

竹内 均 30

子どもたちは自然から何を学ぶか？

C・W・ニコル 32

事例紹介

1 家庭・地域との連携により豊かな心を育てる道德教育

埼玉県越谷市立大沢小学校 34

2 GCV 大中タイムの展開で花いっぱい成果

福岡県田川郡大任町立大任中学校 38

3 豊かな体験から豊かな心を

石川県教育委員会 42

4 ふるさとの心を育む「全国子どもふるさと交歓会」の開催

国立那須甲子少年自然の家 46

解説

小・中・高等学校における道德教育

50

カラー

学校建築の今昔 加世田小学校

1

人間国宝登壇 清水卯一

4

名作シリーズ 源氏物語 図色紙 表紙2

表紙2

文化財紹介 コウノトリ

表紙3

人ここの道 小野正吉

58

わがまちの教育・文化 ② 富山市

59

ことばの小箱 / やさしい教育用語の解説

62

私の選ぶ一冊

林田英樹

63

焦点 文教施策

64

科学のひろば 高エネルギー物理学研究所 ②

72

ふるさとのうた おぼろ月夜

74

海外教育 ニュース

76

郷土に生きる教育家群像 ④ 茨城県

78

鑑賞席ヴァン・ド・ヴェルド展

82

読者からのたより

83

編集後記

84

私はこれまでに、調理技術・技能についての賞をいくつかいただきました。もちろん、私はフランス料理を専門とする料理人です。で、とても名誉あることと感謝しております。しかし、仕事を通じていつも感じていたことは、「食文化」という側面から私たちの仕事の評価されてもいいのではないか、ということでした。

日本にフランス料理が普及して、早や一〇〇年を迎えようとしています。この間、フランス人は私たち日本の料理文化や中国の料理文化に大いなる敬意を表してくれているのに、日本人がフランスの独特の文化である料理に對して、あまり評価を与えてないということが残念でなりません。

昨年の秋、初めて制定された「文化庁長官表彰」に、料理界より「フランス料理の普及に努め、食文化の発展に貢献した業績」により表彰を受けましたことは、非常にうれしく思います。それと同時に、私を通じフランス料理が文化という側面から評価されるきっかけとなったことは、後進のためにひとつの細い道がひらけたような気がいたします。

いうまでもなくフランス料理は、外国の料理であり文化です。私たち日本人はこれを学ぶにはそれなりの努力が必要です。明治時代

フランス料理と 「食文化」の 発展をねがう



小野正幸

おの・まさきち 大正7年生。横浜市出身。昭和7年東京倶楽部、同11年ホテルニューグランドを経て同36年ホテルオークラ入社。平成元年専務取締役総料理長に就任。昭和56年運輸大臣賞、同57年労働大臣卓越技能賞、同58年黄綬褒章、同63年フランスから農事勲章オフィシェ章受章、平成元年文化庁長官表彰。

から、私たちの先輩が大変な努力をしてフランス料理を学んできたことは、今さいうまでもありません。そうした先人の努力があつてこそ、今日の日本のフランス料理の普及と繁栄があるのです。私たちは技術者で、フランス料理の技術の変化には敏感です。時代とともに料理法も変化し、新しい技術も開発してきました。しかし、今、私たちにとって大切なことは、自分が修得したひとつの技術だけに固執することなく、時代の流れに身をゆだね、その時々何が変化しつつあるのかを見届けながら、自分を見つめることだと思います。

フランス料理は私にとって、まだまだ奥深いものがあり毎日が勉強です。今後もフランス料理という外国の食文化を担っていることを忘れずに、謙虚な姿勢で、努力してまいります。

しかし、私たち料理人だけでは技術的な面以上にフランスの食文化を理解することは困難です。これからは料理技術の周辺にある、あるいは技術を根底から支える食文化というものをも研究してくださる人が一人でも多く出てきて欲しいと思います。そうした研究者と私たち技術者とが手をつないで歩むことが必要な時代になってきたと痛感しております。

特集 ●青少年 の 自然体験

●巻頭言
青少年の自然体験活動の重要性
坂本昇一

●座談会
自然体験活動の現状と今後の展望
(出席者)今給黎教子／内田忠平
吉田 章／(司会)富岡賢治

●論文

学校教育における自然に親しむ教育活動
高橋哲夫

自然体験活動とこれからの青少年教育施設
加藤雅晴

学校外活動における自然体験活動―草川一校
事例紹介
国立吉備少年自然の家ほか

●解説
青少年の自然体験活動

人：この道
わがまちの教育・文化
福岡県立社会教育総合センター
杵屋勘五郎

ことばの小箱
科学のひろば
高エネルギー物理学研究所
野元菊雄

ふるさとのうた
郷土に生きる教育家群像
新潟県教育委員会
鹿兒島県

編集 後記

▽ゴールデン・ウィークは、読者の皆さんいかがお過ごしでしたか。このような大型連休には、ぜひ家族一同で外出し、子どもに自然との触れ合いや社会体験をさせてやりたいものです。

▽ところで、いま、子どもたちは何をして遊んでいるのでしょうか。あまり外で遊んでいる姿を見かけません。学校が終わると塾通い、帰ると宿題、合間にテレビでは家の中ばかり。外で遊ぶ余裕などなさそうです。こうした傾向は、都会ばかりでなく、地方でも同じだといえます。

▽昭和二〇年代は貧しかったが、どこかのんびりゆったりしていて、人間性豊かな生活がありました。(A・N)

投稿歓迎

- 『読者からのたより』欄への投稿を歓迎します。本誌を読んだの感想、ご意見等をどしどしお寄せください。
- 投稿規定
- ①一件につき四〇〇字以内
 - ②住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記(誌上匿名可)
 - ③掲載分には薄謝進呈
- ※文章を一部手直しさせていただくことがあります。
- 送り先
〒100 東京都千代田区霞が関三―二―二
文部省大臣官房政策課「文部時報」編集部

MESC 61 月刊

文部時報 5月号

第1360号

●著作権所有——文部省©

●発行所——株式会社 きょうせい

本社 〒104 東京都中央区銀座7丁目4番12号
(営業所) 〒162 東京都新宿区西五軒町4-2
電話 03-268-2141(代表) 振替口座 東京9-161番

●印刷所——株式会社行政学会印刷所

平成2年5月10日印刷
平成2年5月10日発行

定価500円(本体485円)(〒61円)

年間購読料6,000円(〒共)

・ただし、増大号、臨時号の場合は別に代金を申し受けます。
・なお、購読のお申し込みは直接営業所またはよりの書店をお願いします。

●本誌の掲載文のうち、意見にわたる部分については、それぞれ筆者個人の見解であることをお断りいたします。